

平成 30 年度

阿賀野市市政モニター意見・提言報告書に対する回答

安全・安心なくらしの実現に関するもの

- ◆トレーニングルームの利用拡大（利用時間の拡大や無料年齢の引き下げなど）

【回答】

体育館のトレーニングルームについては、年末・年始を除き午前 9 時から午後 9 時 30 分まで利用でき、定期券や回数券などの割引制度もあります。また、健康塾のフィットネス機器の利用については、無料となっておりますので、体育館のトレーニングルームにおける利用時間の拡大や無料年齢の引き下げについては考えておりません。

- ◆運動環境の整備（各地区に自然を感じながら運動できるスポットの指定など）

【回答】

市内に 4 か所のウォーキングコースを指定しており、各コースの見所や距離、所要時間などを掲載した「あがのシャキ！いき！ウォーキングマップ」を作成し紹介しております。ウォーキングマップは水原保健センターや各支所のほか、市内体育館、市立図書館などに設置しております。

- ◆交通事故が多発する点滅式信号機設置交差点の信号機撤去の検討（信号機があることで、むしろ危ないと感じる）

【回答】

交通信号機を管理する県公安委員会（阿賀野警察署）と連携し、一灯式信号機の撤去を含め、事故防止対策を検討しております。

- ◆交通量が多くスピードが出やすい国道等への立体横断歩道（トリックアートのように白線が浮き上がって見える）の採用の検討

【回答】

交通安全対策は、道路管理者である国・県・市と警察との協議により実施しており、交通事故の多発箇所では、速度抑制のための視覚的な段差や道路が狭

く見える路面標示・カラー舗装などの対策を行っております。

今後も道路管理者と警察で協議を行い、立体横断歩道も含め、有効な安全対策を図ってまいります。

子どもの育成支援の充実に関するもの

◆朝食抜きの子どもに対する指導・改善方法の検討

【回答】

食育推進計画の重点目標に「家族で毎日朝ごはん（米飯）」を掲げ、乳幼児健診や学校等で食育講座を実施するなど、家族で食べる朝食の重要性を中心とした食育活動に取り組むとともに、全世代の朝食摂取の向上に取り組んでおります。

◆子どもの農業体験の実施（野菜等の成長過程を知ることにより、野菜を身近に感じ、偏食の抑制にもつながる）

【回答】

市内小学校では稲作、畑作、酪農体験等に取り組んでおり、市は、子どもたちが農業体験により食の大切さや食を支える農業への理解につなげていくための「農林漁業体験学習支援事業」により支援しております。

また、農業関係者や保育関係者を食育ネットワーク委員に委嘱し、食育推進計画の進捗管理を行ってもらうとともに、「食育通信」に農業体験事業を掲載することにより周知啓発を行っております。

◆小・中学生の職場体験を通じた地元産業・企業の魅力発信（若者が地元企業に魅力を感じにくい状況にある）

【回答】

既に中学生の職場体験は実施しており、阿賀野高校生も市内企業の見学・体験に参加してもらっております。小学生も地元企業への訪問活動を行っておりますが、企業と学校との連携を強化し、さらに市内企業の魅力が伝わるよう工夫してまいります。

地域経済の活性化に関するもの

- ◆市内への若年層や中年層が集える場の誘致（ファミレス、イオンなど）

【回答】

企業は、購買力をはじめとする商圈について調査検討した上で操業場所を選定することから、企業の進出意向があれば、必要な情報提供を行います。

- ◆企業誘致の伸展

【回答】

新潟県企業局と情報共有を図りながら、東部産業団地への誘致活動を行います。

- ◆地元企業による市民の優先的な採用

【回答】

企業誘致条例に基づく優遇制度適用の際に、市民の優先採用を促しております。

- ◆魅力を感じる企業の育成（若者の流出に歯止めをかけるため）

【回答】

商工会や金融機関等との連絡会議を開催し、多面的なアドバイス（資金調達計画や事業計画の相談、中小企業診断士などの専門的アドバイザーの紹介等）を行っております。

- ◆高齢農業者と連携した子どもたちの農作業体験の実施（双方にとって様々な相乗効果が期待できる）

【回答】

市内小学校で取り組んでいる「農林漁業体験学習支援事業」では、地域の高齢農業者からも子どもたちに農作業の指導等を行っていただいております。この交流により、食を支える農業への理解促進や高齢者の生きがいづくり等につながっております。

生活に密着した住環境整備の促進に関するもの

- ◆東部産業団地内の遊歩道や公園管理の徹底

【回答】

定期的に状況確認を行い、管理を徹底いたします。

- ◆消雪パイプ未整備路線への整備

【回答】

住宅密集地などの機械除雪作業が困難な箇所について、消雪パイプの整備を計画してまいります。

- ◆交通弱者の増加に伴う市営バスの充実・利便性の強化（基幹ルート以外を小型車で行うドアツードア方式や、デマンド交通の成功事例、南相馬市の「おだかeーまちタクシー」方式の導入など）

【回答】

市営バスでは、現在5路線でデマンド交通の実証運行をしております。その検証を行うとともに、他市の事例も参考にしながら、より良い公共交通の実現に向け、運行形態や路線の再編・見直しに取り組みます。

- ◆市内と新津駅や豊栄駅を結ぶバスの新設

【回答】

新潟広域都市圏の中で、新潟市と連携し進めていくこととなります。バス路線の新設にあたっては、JR羽越線や民間路線バス（水原ー新潟）の影響も慎重に考慮する必要があります。

- ◆子どもたちに対する市営バス利用方法の周知の徹底（各学校を經由した種類・バス停の位置・時刻表などに関するチラシの配布など）

【回答】

市営バスの利用方法は、広報等を通じて周知を図ります。路線ごとに簡易的な路線図をホームページに掲載しておりますが、より一層PRを図ってまいります。

◆免許返納後の市営バス無料期間の延長

【回答】

平成31年4月1日から、免許返納者に対する市営バス無料期間を無期限にいたします。

市民協働の推進に関するもの

◆自然の豊かさをPRした中学生などの体験入学の誘致（栗島浦村が実施している都会からの子どもの留学などを参考として）

【回答】

現段階において、子どもの留学などの受入体制が整っておりませんが、五頭連峰少年自然の家で中学生の団体や家族単位での受け入れ等を行っておりますので、多くの方から利用していただけるようPRしてまいります。

◆ホームページの内容充実と迅速な更新

【回答】

誰もが使いやすく、快適に閲覧できるよう、情報の整理と内容の充実に努め、各種市政情報を速やかに発信してまいります。

◆見やすく興味を持てる広報紙の作成（字数の削減や写真数の増加など）

【回答】

短文で分かりやすい表現を使用し、より見やすくなるようレイアウトを工夫するなど、さらに改良を重ね、若年層からも手に取ってもらえる紙面づくりに努めてまいります。

◆インスタグラムやフェイスブックなどSNSを活用したPR（旅行の予約、飲食店の検索、調べ物など、情報を得る手段として、雑誌を購入するよりスマホやパソコンを活用している人が多いため）

【回答】

平成31年度からSNSを活用する予定であり、PRする内容やターゲットを定めた上で、SNSそれぞれの特徴を生かし、戦略的なSNS活用について検討を進めております。

◆素材などを工夫した目立つ観光看板の設置

【回答】

水原駅前や瓢湖、うらの森等に安田瓦を使用した観光案内看板を設置しております。さらに目を引くような看板の設置などを検討してまいります。

信頼される行政経営に関するもの

◆市の中心拠点となる施設の配置(商業施設と公共施設を1か所に集約すれば、市民の利便性が高まる)

【回答】

次年度から「立地適正化計画」※の策定を予定しており、この中で都市機能誘導地域について検討することとしております。

※「立地適正化計画」…居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等のさまざまな都市機能の誘導により、都市全域を見渡した基本計画。

◆個人のプライバシーに配慮したアンケート後の聴取の実施(内容の趣旨に沿ったことだけを聴取するよう徹底を)

【回答】

市民の皆さまに話を伺う際は、個人のプライバシーに十分配慮し、信頼を損ねることのないよう職員に指導、徹底いたします。